

5. 災害に備えて

今後必ず発生すると予測されている大地震をはじめとする災害・事故等に対応し、安全で安心な水道水を供給するために、様々な取り組みを行っています。

耐震管への更新

耐震管とは、管と管をつなぐ継手部に伸縮性や離脱を防止する機能を有しており、地震や地盤沈下などによる地盤変化に対応できる耐震性が非常に高い構造の水道管です。現在、配水管の新設、老朽化等による更新等においては、この耐震管を採用しています。



耐震ダクタイル鋳鉄管

給水拠点(緊急遮断弁の設置)

大地震が発生すると、配水管が損傷し水道水が流出するおそれがあります。そうすると配水池の水がなくなり、飲料水の確保ができなくなります。そこで、一定規模以上の地震の揺れを感知し、自動で弁を閉めることにより配水池から水道水の配水をストップさせる「緊急遮断弁」を配水池に設置しています。

三田市では主要な配水池9ヶ所において設置を完了しました。これにより、災害発生後の飲料水の確保ができるよう備えています。また、このうち7ヶ所の配水池に給水栓を設置し、ここから給水を行うことが可能となります。



緊急遮断弁(青色)



給水栓

応急給水拠点

- | | | |
|----------|-------------|-----------|
| ○工業団地配水池 | ○つつじが丘高区配水池 | ○あかしあ台配水池 |
| ○けやき台配水池 | ○弥生が丘配水池 | ○西高区配水池 |
| ○友が丘配水池 | ○古城浄水場 | |



応急給水拠点マーク

給水車等の災害備品

給水車(3,500ℓと1,800ℓ、各1台)をはじめ、災害時等に役立つ様々な備品があります。



給水車



仮設給水栓



給水袋(6ℓ)

このほか、車載用給水タンク(2,000ℓ)やポリタンク(20ℓ)、組立式給水タンク(1,000ℓ)などがあり、いざという時すぐ使用できるよう準備しています。

給水支援活動

三田市水道事業では、地震などによる被害が発生した場合に各水道事業者が相互に救援協力して、被災水道事業者の応急復旧、応急給水などの活動を円滑に遂行できるよう、様々な協定を結んでいます。



東日本大震災での給水支援(宮古市)
(平成23年3~5月)



豪雨災害での給水支援(丹波市)
(平成26年8~9月)



災害時、ひとり当たりの水の必要水量は
災害発生から3日まで 3ℓ/日
3日から10日まで 3~20ℓ/日
10日から20日まで 20~100ℓ/日
としています。

普段から、飲料水(ペットボトル等)の備蓄、
お風呂の残り水をすぐ捨てないなど、
いざという時に備えましょう。